

Oxford Reading Tree Level 6 More Stories B

- ① Paris Adventure 「パリの冒険」
- ② The Stolen Crown Part 1 「盗まれた王冠 パート 1」
- ③ The Stolen Crown Part 2 「盗まれた王冠 パート 2」
- ④ Ship in Trouble 「船の大ピンチ」
- ⑤ Homework! 「宿題！」
- ⑥ Olympic Adventure 「オリンピックの冒険」

Paris Adventure 「パリの冒険」

- PG 1: The Children were doing a project on France. Mrs may showed them some pictures of Paris.
子どもたちはフランスについて調べていました。メイ先生がパリの写真を見せてくれました。
- PG 2: Mrs May showed them a picture of the Eiffel Tower.
“It looks very tall,” said biff.
メイ先生はエッフェル塔の写真を見せてくれました。
「この塔、すごく高そう」とビフが言いました。
- PG 3: After school Mum came to meet Biff and Chip. Biff had a picture of Paris.
“We are doing a project on France,” she said.
放課後、ママがビフとチップを迎えに来ました。ビフはパリの写真を持っていました。
「今フランスについて調べているの」と言いました。
- PG 4: Later Nadim and Anneena came to play with Biff and Chip. Anneena had a model of the Eiffel Tower.
後からナディムとアニーナが、ビフとチップの所へ遊びに来ました。
アニーナはエッフェル塔のプラモデルを持って来ました。
- PG 5: “I know,” said Chip. “Let’s paint the French flag.”
He got a big sheet of paper and they began to paint it.
「そうだ！」とチップが言いました。「フランスの国旗を描いてみようよ」
チップが大きな紙を持って来て、皆で描き始めました。
- PG 6: Suddenly the magic key began to glow. It was time for an adventure.
“Oh no!” said Biff. “I wanted to finish painting the flag.”
いきなりマジックキーが光り始めました。冒険の始まりです。
「わあ、やめて！」とビフ。
「国旗を完成させたかったのに」
- PG 7: The magic took them back in time. It took them to a busy town.
“There are no cars,” said Chip. “This must be a long time ago.”
魔法の力で子どもたちは時代をさかのぼりました。にぎやかな街に連れて行かれました。
「車が一台も通っていない」とチップが言いました。
「これは、かなり昔の時代だぞ」

- PG 8: “I know where we are,” said Biff.
“We are in Paris. Look at all the flags.”
Anneena was excited. “We can go and see the Eiffel Tower,” she said.
「どこにいるか分かった」とビフが言いました。
「パリにいるのよ。ほら見て、あちこちの旗を」
アニーナは興奮気味でした。
「エッフェル塔を観に行けるわね」と言いました。
- PG 9: The children looked for the Eiffel Tower but they couldn't find it.
“Are you sure this is Paris?” asked Chip.
子どもたちはエッフェル塔を探しましたが、見つかりませんでした。
「ここがパリって、まちがいないの？」とチップが聞きました。
- PG 10: Nadim asked a policeman. “Do you know where the Eiffel Tower is?” he asked.
“The Eiffel Tower!” said the policeman. “There is no such thing.”
ナディムはおまわりさんに聞いてみました。
「エッフェル塔の場所をご存知ですか？」
「エッフェル塔！」とおまわりさんが言いました。
「そんなものはないぞ」
- PG 11: Anneena asked a lady. “Do you know where the Eiffel Tower is?” she asked.
“The Eiffel Tower!” said the lady. “There is no such thing.”
アニーナは女の人に聞いてみました。
「エッフェル塔がどこにあるかご存知ですか？」
「エッフェル塔！」と女の人が言いました。
「そんなものないわよ」
- PG 12: “I know why we can't find the Eiffel Tower,” said Biff. “It hasn't been invented.”
Just then they saw a man. He was pulling a cart.
「エッフェル塔を見つけられない理由がわかった」とビフが言いました。
「まだ造られていないんだよ」。
その時、男の人の姿が見えました。その人はカートを引きっていました。
- PG 13: “Will you help?” asked the man. “I can't get the cart up this step.”
The Children helped the man pull the cart into a hall.
「手伝ってくれないかね？」と男の人が言いました。
「カートをこの段の上に持ち上げられないのでね」
子どもたちはその人を手伝って、カートをホールの中まで引っぱって行きました。

- PG 14: The man pulled a sheet off the cart.
"This is my model," he said.
"Why is it?" asked Nadim.
その人はカートにかかっていた布を取りました。
「これは私の作った模型だよ」と言いました。
「何ですか？」とナディムが尋ねました。
- PG 15: "It is a torch," said the man. "It will be taller than all the houses in Paris. People will see it for miles. Here is a picture. It will look like this."
「たいまつだよ」と男の人が答えました。
「パリ中のどんな家々よりも高くなるだろう。何マイルも離れたところからでも見えるぞ。これが完成図だ。こんな風になる予定だよ」
- PG 16: The children looked round the hall. There were lots of models.
"It's a competition," said Chip. "I know which one will win... the Eiffel Tower!"
子どもたちはホールを見回しました。模型であふれていました。
「これはコンクールなんだ」とチップが言いました。
「どれが優勝するか知ってるぞ・・・エッフェル塔だよ！」
- PG 17: "But I can't see the Eiffel Tower," said Nadim. Some people began to look at the models to see which was the best
「でもエッフェル塔が見当たらないな」と。
何人かの人たちが模型を見回って、どの作品が最高かチェックをし始めました。
- PG 18: "Everyone will see my torch for miles," said the man. "At night the top will light up like this!" He plugged in the torch.
「何マイルも離れたところからでも、私のたいまつは皆に見えますぞ」
男の人は言いました。
「夜になればてっぺんはこんな風に明るくなります」
彼はコンセントを差し込みました。
- PG 19: There was a loud bang. The top of the torch blew off. Then it fell over with a crash.
大きな音がしました。たいまつのでっぺんが吹き飛びました。そしてがちゃんと音を立てて倒れました。

- PG 20: “Ah!” said the man. “It needs a little work.”
Anneena had an idea. She began to lift the broken torch.
“Help me, everyone,” she said.
「あ～！」と男の人。
「これは少し、直しが必要になってしまった」
アニーナにある考えが浮かびました。彼女は壊れたたいまつを起こそうとして言いました。
「みんな、手伝って」
- PG 21: The children turned the torch upside down.
“What does it look like to you?” asked Anneena.
子どもたちはたいまつを上下逆さに立てました。
「どんな風に見える？」とアニーナが聞きました。
- PG 22: “It looks like the Eiffel Tower,” said Biff. She spoke to the man.
“Excuse me,” she said. “Why not make the torch into a tower?”
「エッフェル塔に見えるけど」とビフが言いました。
ビフは男の人に話しかけました。
「どうでしょう」と言いました。
「たいまつを塔にしてみたら？」
- PG 23: “Excuse me,” said Anneena. But is your name Eiffel?”
“Brilliant!” said the man. “Brilliant!” Just then the magic key began to glow.
「もしかして」とアニーナが言いました。
「あなたのお名前はエッフェルさん？」
「素晴らしい！」と男の人が言いました。
「こりゃあ素晴らしい！」
ちょうどその時、マジックキーが光り始めました。
- PG 24: “I wonder if that was Monsieur Eiffel,” said Biff.
“And if that was how the Eiffel Tower was invented!” said Nadim.
「さっきの人がエッフェルさんだったのかな」とビフが言いました。
「それで、エッフェル塔が造られたいきさつがさっきの出来事ってわけかも！」とナディムが言いました。

The Stolen Crown Part 1 「盗まれた王冠 パート1」

- PG 1: The family went to see an old castle. Most of it had fallen down a long time ago.
“It’s just a ruin,” said Chip.
家族そろって古いお城を見に行きました。お城の大部分は、ずいぶん以前に崩れ落ちてしまっています。
「なあんだ、ただの廃墟じゃないか」とチップが言いました。
- PG 2: Kipper Wanted to climb on a wall, but Dad said “no”.
We must look after old ruins,” he said.
キッパーは壁を登りたがりましたが、パパが「ダメ！」と言いました。
「古い廃墟は大切に守らなくてはね」と言いました。
- PG 3: “Once upon a time, it was a big castle,” said Biff. “I wonder what it was like to live here.”
「昔むかし、ここは大きなお城だったんだよね」とビフが言いました。「こんなお城に住むのって、どんな気分かなあ」
- PG 4: Mum found a good spot for a picnic. Floppy saw a rabbit hole. He began to dig in the ground.
ママはピクニックにうってつけの場所を見つけました。フロッピーはうさぎの穴を見つけました。地面を掘り始めました。
- PG 5: Chip saw something shining in the dirt, so he picked it up.
“It’s a glass bead,” he said.
“I wonder who lost it?” said Biff.
チップは土の中に光るものを見つけ、拾い上げました。
「これはガラス製のビーズだね」と言いました。
「これをなくしたのは、どんな人なんだろう？」とビフが言いました。
- PG 6: Chip looked at the bead through his magnifying glass. Then he put it in his pocket.
“I Don’t think it’s valuable,” he said.
チップは虫眼鏡でビーズを覗いてみました。それからビーズをポケットにしまいました。
「価値あるものには見えないけどね」とチップは言いました。

- PG 7: Later, Chip came into Biff's room. He had a book about castles.
Suddenly, the magic key began to glow.
後から、チップがビフの部屋にやって来ました。お城について書かれた本を持っていました。
突然マジックキーが光り始めました。
- PG 8: The Magic took Biff and Chip back in time. It took them to the castle.
Some people were waiting outside a big door.
魔法の力でビフとチップは時代をさかのぼりました。魔法の力でお城に連れてこられました。
何人かの人々が、大きな扉の前で待っていました。
- PG 9: An important man came up.
"I am Lord Kent," said the man. "Where is your present for the prince?"
立派な男の人が近づいて来ました。
「私はケント卿だ」とその人は言いました。
「王子様への贈り物はどこにある？」
- PG 10: Biff and Chip didn't have a present.
"Think of something, Chip," said Biff.
"Er...we have a magic glass," said Chip. "It makes small things look big."
ビフとチップは贈り物を持っていませんでした。
「何か考えてよ、チップ」とビフが言いました。
「えーと、私たちは魔法の鏡を持って参りました」とチップが言いました。
「これは小さな物を大きく見せる事が出来ます」
- PG 11: "That is a good present," said Lord Kent. "The prince will like it. Put it on this cushion. Then wait outside in the line."
「これは良い贈り物である」とケント卿が言いました。「王子様はお気に召されるだろう。このクッションの上に載せなさい。そして列に並んで待っていなさい」
- PG 12: At last, Biff and Chip went into a hall.
"That was quick thinking, Chip," said Biff. "I wonder who this prince is."
"He must be important," said Chip.
ついに、ビフとチップは大広間に通されました。
「さっきのひらめき、よかったよ、チップ」とビフが言いました。
「王子様って何者なんだろう？」
「すごく偉い人に違いないよ」とチップが言いました。

- PG 13: The prince was sitting on a throne. Chip gave him the magnifying glass.
“I love it!” said the prince.
王子様は玉座に座っていました。
チップは王子様に虫眼鏡を差し上げました。
「気に入ったぞ！」と王子様が言いました。
- PG 14: The prince jumped off the throne and looked through the magnifying glass.
“Tomorrow is an important day,” he said. “Tomorrow I will be the king.”
王子様は玉座から飛び降り、虫眼鏡越しに覗いてみました。
「明日は大切な一日になる」と言いました。
「明日、僕は王様になるのだから」
- PG 15: “You can call me Henry, but tomorrow I will be King Henry,” he said.
“Come with me.” He ran out of the hall.
「僕のことを、ヘンリーって呼んでも良いが、明日からはヘンリー王だからな」と言いました。
「一緒に来て」彼は走って大広間を出て行きました。
- PG 16: Henry ran up some stairs.
“Come and see my crown,” he said. “I went to look at it through this magic glass.”
ヘンリーは階段をいくつか駆け上がりました。
「僕の王冠を見に行こう」と言いました。
「この魔法の鏡を使って、王冠を見てみたいんだ」
- PG 17: Two guards looked at Biff and Chip.
“We are here to see that the crown is not stolen,” said a soldier. “Hold your arms up. We must search you.”
二人の守衛がビフとチップに気づきました。
「我々は王冠が盗まれないようにここで見張っているのだ」と兵士の一人が言いました。
「両手を上げなさい。君たちを調べるから」
- PG 18: Henry took Biff and Chip into a small room in a tower. Biff and Chip gasped when they saw the crown.
“It looks very valuable,” said Chip.
ヘンリーはビフとチップを塔の中の小さな部屋に連れて行きました。王冠を見たとき、ビフとチップはびっくり仰天しました。
「なんだかすごく、価値がありそう」とチップが言いました。

- PG 19: “If it was stolen, I could not become king,” said Henry. “But it is safe in this tower. Nobody could take it from here.”
「もしこれが盗まれてもしたら、僕は王様になれないのだ」とヘンリーが言いました。
「でもこの塔の中に置いてあれば安心さ。誰もここからは持ち去ることは出来ないからね」
- PG 20: Henry took Biff and Chip to see his horse.
“I shall ride him when I become king tomorrow,” he said.
ヘンリーはビフとチップに馬を見せに連れて行きました。
「明日王様になる時には、この馬に乗るんだよ」と言いました。
- PG 21: Suddenly, they heard shouting. Lord Kent ran up to Henry.
“Come quickly!” he shouted. “Your crown has been stolen.”
突然、3人は叫び声を聞きました。ケント卿がヘンリーのところへ走ってきました。
「急いでいらしてください！」と叫びました。
「あなたの王冠が盗られました」
- PG 22: Henry ran back up the stairs to the crown room. The guards were still outside the door.
“The crown is missing,” said a guard.
ヘンリーは階段を駆け上り、王冠の置いてある部屋まで戻りました。守衛たちはまだ扉の外にいました。
「王冠がなくなりました」と守衛が言いました。
- PG 23: “How can it be missing?” asked Henry.
“We don’t know,” said a guard. “Nobody has been here, except you.”
“I know who stole it,” said Lord Kent.
「なくなるなんて、どうしてなのだ」とヘンリーが聞きました。
「我々にも分かりません」と守衛が言いました。
「あなた方以外には誰も部屋に入っておりません」
「誰が盗んだか分かったぞ」とケント卿が言いました。
- PG 24: “These children have stolen it,” Lord Kent went on. “They used magic to do it. Throw them in prison at once.”
“Oh!” said Biff. “Now we’re in trouble!”
「ここにいる子どもたちが盗んだのだ」ケント卿が話を続けました。
「魔法を使って盗んだのだ。直ちに牢獄へ放り込め」
「ああ！」とビフが言いました。
「困った事になっちゃった」

Now read Part 2...
この先はパート2を読んで
ください

The Stolen Crown *Part 2* 「盗まれた王冠 パート2」

- PG 1: **Have you read part 1?**
パート1はもう読みましたか？
- “These children stole the crown,” said Lord Kent. “Throw them in prison.”
“Stop!” said Henry. “I don’t think they stole my crown.”
「ここにいる子どもたちが王冠を盗んだのだ」ケント卿が言いました。
「やつらを牢獄に放り込め」
「やめろ！」とヘンリーが言いました。
「二人が盗んだとはとても思えない」
- PG 2: Henry spoke to the guards. “Who has been in this room today?” he asked.
“You and Lord Kent,” said a guard.
ヘンリーは守衛たちに話しかけました。
「今日この部屋に入ったのは誰だ？」
王子様が尋ねました。
「あなた方とケント卿です」と守衛が言いました。
- PG 3: “No body could have taken it out of this room,” said the other guard.
“We search everyone.”
“The children took it,” said Lord Kent.
「誰もこの部屋から持ち出せたはずがないのです」
もう一人の守衛が言いました。「私たちは一人一人をきちんと調べています」
「ならばやはり、子どもたちが取ったのだ」とケント卿が言いました。
- PG 4: “We didn’t take it,” said Biff, “and nobody else could get in from the outside.”
「私たちは取っていないし」とビフが言いました。
「それに他の誰も外からは侵入できないはず」
- PG 5: Chip saw something on the floor. It was a broken arrow. He asked Henry to lend him the magnifying glass.
チップは床の上の何かを見つけました。それは折れた矢でした。チップはヘンリーに虫眼鏡を貸してくれるよう頼みました。

- PG 6: “Someone tied string to the window,” said Chip. “I think I know how the crown was stolen.”
「誰かが窓に紐を結んだんだ」とチップは言いました。
「王冠がどうやって盗まれたか分かった気がする」
- PG 7: “Someone was in this room. Then someone outside the castle shot an arrow through the window. It had string tied to it.”
「誰かがこの部屋の中にいたんだ。それから外にいる他の誰かが窓に向かって矢を放った。その矢には紐が結ばれていた」
- PG 8: “The person in the room put the string through the crown. Then they tied the string round this bar in the window.”
「部屋の中の人がその紐に王冠を通した。それから紐の端を窓の格子にしばったんだ」
- PG 9: “The crown slid down the string. Then the person in the room untied the string and left. It was easy.”
「王冠はその紐を伝って下まで降りた。それから部屋にいた人が紐をはずして部屋を出たってわけ。簡単な事だったんだよ」
- PG 10: “I know who stole the crown,” said Henry. “You, Lord Kent. You want to stop me being the king.”
Suddenly, Lord Kent ran off.
「王冠を盗んだ者が分かったぞ」とヘンリーが言いました。
「ケント卿、お前だ。お前は僕が王になるのを阻止したかったのだろう」
いきなり、ケント卿が逃げ出しました。
- PG 11: “Ha!” he shouted. “You will not be king. I will! You have lost the crown.”
“Catch him!” shouted Henry. “Don’t let him get away.”
「ふん！」と彼は叫びました。
「お前なんかが王になれるものか。私になるのだ！お前は王冠をなくしてしまったのだからな」
「やつを捕まえろ！」とヘンリーが叫びました。
「取り逃がすな」
- PG 12: Biff and Chip grabbed Lord Kent’s cloak and pulled him over.
“Throw him in prison!” shouted Henry.
ビフとチップがケント卿のマントをつかんで、彼を引き寄せました。
「やつを牢獄に放り込め！」ヘンリーが叫びました。

- PG 13: Henry ran out of the castle.
“Come on!” he called to Biff and Chip. “We have to get my crown back.”
ヘンリーはお城から走り出しました。
「来て！」とビフとチップを呼びました。
「王冠を何としても取り戻さなきゃ」
- PG 14: Suddenly, Henry stopped running. Two men were searching for something in the grass.
いきなり、ヘンリーは走るのを止めました。二人の男が草むらの中で何かを探していました。
- PG 15: “Keep down,” hissed Henry. “Don’t let them see us.”
“What are they looking for?” asked Biff.
「身をかがめていて」とヘンリーがささやきました。
「彼らに見られないようにして」
「あの人たち、何かを探しているんだろう？」とビフが尋ねました。
- PG 16: One man took the crown out of a bag.
“This is bad news,” he said. “The biggest jewel in the crown is missing.”
男が袋の中から王冠を取り出しました。
「こりゃあ悪い知らせだ」とその男が言いました。
「王冠の中で一番大きな宝石が無くなっちゃまっている」
- PG 17: “We must find it,” said the other man. “Lord Kent will think we have stolen it.” “It must be here,” said the first man. “I hope it didn’t fall in the moat.”
「なんとか探さなきゃならん」ともう一人の男が言いました。
「俺たちが盗んだとケント卿に思われちゃう」
「この辺にあるはずなんだ」と最初の男が言いました。
「お堀の中に落ちたんでなければいいが」
- PG 18: Chip had an idea. In his pocket was a glass bead.
“Is this the jewel?” he asked.
“No,” said Henry. “The jewel is much bigger.”
チップに考えが浮かびました。ポケットにはガラスのビーズがありました。
「これがその宝石ではありませんか？」チップが尋ねました。
「ちがうよ」とヘンリーが答えました。
「その宝石はもっともっと大きいんだ」

- PG 19: “Give Biff the magnifying glass, Henry,” said Chip, “and stay where you are.”
Biff and Chip went up to the men.
「ビフに虫眼鏡を渡してください、ヘンリー」とチップが言いました。「そしてここでじっとして下さい」
ビフとチップは男たちの所に行きました。
- PG 20: Biff held the magnifying glass over the bead.
“Are you looking for this big jewel?” she said. “We have just found it.”
ビフは虫眼鏡をビーズの上にかざしました。
「もしかしてこの大きな宝石をお探しでは？」と言いました。
「たった今、みつけたのですが」
- PG 21: Suddenly, Biff dropped the bead. The men bent down to get it. She grabbed the crown and Chip pushed the men into the moat. Splash!
いきなり、ビフはビーズを落としました。男の人たちは身をかがめて取ろうとしました。ビフは王冠をつかみ取り、チップが男たちをお堀に突き落としました。バシヤン！
- PG 22: Biff threw the crown to Henry.
“Don’t drop it!” yelled Chip. “Now run! You can be king after all!”
ビフはヘンリーに向かって王冠を投げました。
「落とさないで下さいよ！」とチップが叫びました。
「さあ走って！これでついに王様になれますからね！」
- PG 23: “I’m glad I’m not a king,” said Chip. “You just can’t trust anyone.”
“But you can trust the magic key,” said Biff. “It’s glowing.”
「僕は王様なんかじゃなくて良かったよ」とチップが言いました。
「誰の事も信用できなくなっちゃうもの」
「マジックキーだけは信じていいんじゃない」とビフが言いました。
「光ってるよ」
- PG 24: “Henry was just a boy,” said Chip. “I wonder if he was king for a long time?”
“Who knows?” said Biff. “I wonder if he found that missing jewel?”
「ヘンリーはまだ少年だったよね」とチップは言いました。
「彼は長いこと王様でいられたのだろうか？」
「さあどうかな？」とビフが言いました。
「それよりなくなった宝石は見つけれられたのかなあ？」

Ship in Trouble 「船の大ピンチ」

- PG 1: Wilma's mum took the children to an adventure playground. It was a new playground and it looked exciting.
ウィルマのママが子どもたちをアドベンチャーパークに連れて行きました。そこは新しく出来た、見ているだけでワクワクするような場所です。
- PG 2: They all wanted a go on the zip wire. Chip went first. It was hard to get on it, so Wilma's mum helped him.
みんなはジップワイヤー(滑車じかけのブランコでロープをすべりおるる乗り物)に乗りたがりました。チップが一番に挑戦しました。乗るのが難しかったけれど、ウィルマのママが手伝ってくれました。
- PG 3: The zip wire went fast.
"Yee ha! This is scary," called Chip. "I love it."
ジップワイヤーはとても速く進みました。
「ひゃ～！こりゃあこわい」とチップが叫びました。
「気に入ったぞ」
- PG 4: Wilma was next, but she felt scared. Then the wind blew and it began to rain. "It's too windy and it's raining," said Wilma. "I can't go."
次はウィルマでしたが、恐がっていました。そこへ風が吹き、雨も降り出しました。
「風が強すぎるし、雨も降ってきちゃったし」とウィルマが言いました。
「私は行けない」
- PG 5: "It's a bad storm," said Mum. "Let's go home. We can come back another day."
So they all ran back to the car.
「すごい嵐だわ」とママが言いました。
「家に帰りましょう。また別の日に来ればいいから」
そこで皆、走って車へと戻りました。
- PG 6: Wilf and Wilma went back to Biff and Chip's house. They went to Biff's room to play.
ウィルフとウィルマがビフとチップの家まで戻って来ました。ビフの部屋に遊びに行きました。

- PG 7: “I hope we go back to the adventure playground,” said Wilf. “I want a go on the zip wire.”
Then the magic key began to glow.
「アドベンチャーパークに戻れたらなあ」とウィルフが言いました。
「ジップワイヤーに乗ってみたいよ」
するとマジックキーが光り始めました。
- PG 8: The magic took the children back in time. It took them to a cliff near the sea. A bad storm was blowing.
魔法の力で、子どもたちは時代をさかのぼりました。海のそばの崖まで連れてこられたのです。嵐が吹き荒れていました。
- PG 9: Suddenly, there was a bang. A bright light lit up the sky. Then a girl ran down the path. Behind her was a man on crutches.
突然、バンという大きな音がしました。明るい光が空を照らし出しました。そして一人の女の子が道を走って来ました。その子の後ろには松葉杖をついた男の人がいました。
- PG 10: “Will you help us?” asked the girl. “The storm has blown a ship on to the rocks. The light in the sky was a call for help.”
「手伝ってくれませんか」と女の子が尋ねました。
「嵐のせいで船が岩に乗り上げてしまったんです。さっきの空の光は助けを呼ぶためだったんです」
- PG 11: “We can’t help,” said Wilma. “You need to call the lifeboat.”
“We can’t,” said the girl. “The lifeboat has gone to help another ship.”
「私たちでは手に負えません」とウィルマが言いました。
「救助船を呼ぶべきだと思いますけど」
「無理なんです」と女の子が言いました。
「救助船は他の船を助けに行ってしまったので」
- PG 12: “My name is Jane,” said the girl.
“I’m Jane’s father,” said the man. “I should be out with the lifeboat, but I’ve hurt my back.”
「私はジェーンと言います」と女の子が言いました。
「私はジェーンの父です」と男の人が言いました。
「私も救助船に乗るはずだったが、背中を痛めてしまってね」

- PG 13: “The ship is stuck on the rocks,” said Jane. “People are in danger. If you help us, we can rescue them.”
「あの船は岩に挟まれてしまって」とジェーンが言いました。
「中の人たちが危険なの。もしあなたたちが手伝ってくれたら、きっと助け出せるわ」
- PG 14: They ran to the lifeboat station. Jane loaded things on to a donkey. She gave the children long poles to carry.
皆は救命本部に走って行きました。
ジェーンはいろいろな物をロバの背中に載せました。そして子どもたちには長い棒を渡して運んでもらいました。
- PG 15: They went back along the path. The waves were crashing over the ship.
“This is a bad storm,” said Wilf.
皆は今来た道に戻りました。波が船に叩きつけていました。
「これはひどい嵐だな」とウィルフが言いました。
- PG 16: Jane told the children to lash two poles together.
“We must make sure they don’t fall over,” she said.
ジェーンは二本の棒をしばるようと子どもたちに言いました。
「絶対に倒れないようにしなくちゃだめよ」と言いました。
- PG 17: Jane’s father had a special cannon. He shot a line out over the water. The line flew through the air and landed on the ship.
ジェーンのお父さんは特製の大砲を持っていました。彼は釣り糸を海に向って打ち上げました。釣り糸は空を舞って船の上に着地しました。
- PG 18: Jane tied a rope to the line. The people on the ship pulled it across. Then they tied the rope to the ship.
ジェーンは釣り糸をロープと結び合わせました。船の人たちがそれを引き寄せました。それからロープを船に結びつけました。
- PG 19: Jane’s father put a pulley on the rope. The pulley had a ring tied to it. “I get it,” said Wilf. “The people sit in that funny-looking ring.”
ジェーンのお父さんがロープに滑車を取り付けました。滑車には浮き輪が結びつけられていました。
「わかった」とウィルフが言いました。
「あの人たちがあの変な形した浮き輪に座るってわけだね」

- PG 20: “Now we pull them in,” said Jane.
“And I thought the zip wire was scary,” said Wilma.
「さあ、あの人たちを引っ張るわよ」とジェーンが言いました。
「ジップワイヤーは恐いって思っていたのよ」とウィルマが言いました。
- PG 21: It was hard pulling the people across on the pulley. The rope dipped in the middle and it swung in the wind.
滑車の力で船の人たちを引っ張るのはとても大変でした。ロープは真ん中あたりで海に浸かってしまい、風でユラユラ揺れました。
- PG 22: The last to come was the captain.
“I’ve lost my ship, but you’ve saved our lies,” he said. “Thank you.”
最後にやって来たのは船長でした。「私は船を失ってしまった。しかし君たちが我々の命を救ってくれた」と言いました。
「ありがとう」
- PG 23: Jane looked at the children.
“Thank you for helping us,” she said. Then the key began to glow.
ジェーンは子どもたちを見ました。
「手伝ってくれてありがとう」と言いました。その時、マジックキーが光り始めました。
- PG 24: “I’m glad I wasn’t on that ship,” said Wilma. “The zip wire at the playground won’t seem scary, now.”
“Not even in a storm?” asked Wilf.
「船に乗ってなくて良かったわ」とウィルマが言いました。
「アドベンチャーパークのワイヤーなんて、今となってはちっとも恐く感じないでしょうね」
「嵐の時でも？」とウィルフが聞きました。

Homework! 「宿題！」

- PG 1: Everyone was excited. It was half-term.
“For homework,” said Mrs May. “I’d like you to keep an autumn diary.”
“Oh no!” said Biff. “Homework!”
皆は興奮状態でした。秋休みだったのです。
「宿題は」とメイ先生が言いました。「秋日記を書いて来ることです」
「あ～あ！」とビフが言いました。「宿題なんて！」
- PG 2: Chip phoned Gran.
“We can’t stay with you all week,” he said. “We’ve got to keep a nature diary. It’s homework.”
チップはおばあちゃんに電話しました。
「一週間も泊まれそうにないや」と言いました。
「自然日記を書くことになってしまつて。宿題なんだよ」
- PG 3: “Don’t worry,” Gran replied. “We can get the homework done and have some fun.”
「心配しなさんな」とおばあちゃんが答えました。
「宿題も出来るし、楽しむ事も出来るよ」
- PG 4: The next day, Dad took Biff and Chip to Gran’s. They picked up Nadim on the way. He was going too.
次の日、パパはビフとチップをおばあちゃんのところへ連れて行きました。途中でナディムを乗せました。彼も一緒に行くのです。
- PG 5: “It will be fun at Gran’s,” said Biff.
“I know,” said Nadim. “But when will we get time to write our nature diary?”
「おばあちゃんの所はきっと楽しいよ」とビフが言いました。
「わかってる」とナディム。
「でも自然日記を書く時間はいつ作ればいいのか？」
- PG 6: They got to Gran’s, but she didn’t come to the door.
“How odd!” said Dad. “She knows we are coming. Let’s look in the garden.”
皆はおばあちゃんの家に着きましたが、おばあちゃんはドアを開けに出て来てくれませんでした。
「変だなあ！」とパパが言いました。
「僕たちが来るのを知っているのに。庭の方を見てみよう」

- PG 7: There were lots of things in the garden.
“How odd!” said Biff. “Why has Gran put sunbeds out? It’s not summer.”
庭にはたくさんの物が置いてありました。
「変だねえ！」とビフが言いました。「なんでおばあちゃんはデッキチェアなんて出しているの？夏でもあるまいし」
- PG 8: Suddenly, Gran opened the door of the shed.
“Surprise!” she said.
The children looked inside.
いきなり、おばあちゃんが物置のドアを開けました。
「じゃじゃーん」とおばあちゃんが言いました。
子どもたちは中を見てみました。
- PG 9: They all gasped.
“I’ve made a nature laboratory,” said Gran. “We can do the nature project in here. It will be fun.”
皆びっくりしました。
「自然研究室を作ってみたんだよ」とおばあちゃんが言いました。
「ここで自然についての調べものをするといいよ。楽しいと思うよ」
- PG 10: Gran took the children into the woods.
“Let’s start with the trees,” she said.
They collected lots of different leaves.
おばあちゃんは子どもたちを森に連れて行きました。
「まずは木から始めよう」とおばあちゃんが言いました。
皆で形の違う木の葉をたくさん集めました。
- PG 11: Gran gave Nadim paper and crayons.
“Put the paper against the tree. Then rub the crayon over it,” she said.
“It’s called a bark rubbing.”
おばあちゃんはナディムに紙とクレヨンを渡しました。
「紙を木の上に押し当ててごらん。その上からクレヨンでこするんだよ」と言いました。
「樹皮こすり、と言うやり方だよ」
- PG 12: Back in the laboratory, they looked at the bark rubbings.
“Each type of tree has a different bark,” said Nadim.
研究室にもどって、皆で樹皮こすりした紙を見ていました。
「木の種類によって、それぞれ違った樹皮があるんだ」とナディムが言いました。

- PG 13: They stuck the leaves in their diaries. Gran had seeds from the trees.
 “We’ll plant these in pots,” she said. “One day they will grow into trees.”
 皆は日記帳に木の葉を貼り付けました。
 おばあちゃんは木の種を持って来ました。
 「この種を鉢に植えてみよう」と言いました。
 「いつかはそれが木に成長することだろう」
- PG 14: The next morning Gran got up early. She mixed seeds and nuts with melted fat and poured it into little pots.
 “What is that smell?” asked Chip.
 次の朝おばあちゃんは早起きました。
 種と木の実を溶かした脂肪と混ぜ合わせ、小さな容器に注ぎ入れました。
 「この匂いはいったい何？」とチップが聞きました。
- PG 15: “Breakfast!” said Gran.
 “I don’t want to eat that!” said Biff.
 “It’s not for you!” said Gran. “It’s for the birds!”
 「朝食だよ！」とおばあちゃんと言いました。
 「そんなの食べたくないよ！」とビフが言いました。
 「お前たちの分ではないよ！」とおばあちゃんが言いました。
 「鳥たちの分だよ！」
- PG 16: When the fat had set in the pots, Gran hung them in the garden.
 “We can watch the birds,” she said.
 脂肪が容器の中で固まると、おばあちゃんはそれを庭に吊るしました。
 「鳥たちを観察できるよ」と言いました。
- PG 17: In the afternoon, Gran took them to a special place in the woods.
 “Now for a secret,” said Gran. “Look!”
 午後からおばあちゃんは、子どもたちを森の中の特別な場所に連れて行ってくれました。
 「さあ、これは秘密だよ」おばあちゃんと言いました。「見てごらん！」
- PG 18: The children looked around. There were coloured mushrooms everywhere.
 “It’s amazing!” gasped Nadim.
 “Look, but don’t touch,” said Gran.
 子どもたちは周りを見回しました。あちこちに色のついたキノコが生えていました。
 「こりゃあ、すごいや！」とナディムが驚いて言いました。
 「見てごらん、でもさわっちゃだめだよ」とおばあちゃんが言いました。

- PG 19: On the way home Chip found some marks in the mud.
“Are they animal tracks?” he asked.
家に戻る途中、チップはぬかるみで足跡を見つけました。
「これは動物の足跡かな？」と聞きました。
- PG 20: Gran got some powder out of her bag. She mixed it with water and made a paste. Then she poured the paste on to the animal track.
おばあちゃんはカバンから粉を取り出しました。それを水で溶いて、ノリ状にしました。そして、それを動物の足跡の上に撒きました。
- PG 21: “This is plaster,” said Gran. “It will dry in the shape of the animal track. It’s called a cast.”
「これは石膏だよ」とおばあちゃんは言いました。
「動物の足跡の形に乾いて固まるの。鑄型と言うんだよ」
- PG 22: They took the cast back to the laboratory. Biff looked up the animal track in a book.
“It’s from a badger,” she said.
皆は研究室に鑄型を持ち帰りました。ビフはその足跡を本で調べてみました。
「これはアナグマの足跡だ」と言いました。
- PG 23: “Tonight I have another surprise,” said Gran. “We need to wrap up warm and we’ll need the sunbeds.”
“Sunbeds?” asked Biff.
今夜、もうひとつビックリする事が起こるよ」とおばあちゃんは言いました。
「たくさん着込んで暖かくする事、それからデッキチェアが必要だよ」
「デッキチェア？」とビフが聞きました。
- PG 24: They lay on the sunbeds and looked up. The sky was full of shooting stars.
“This is amazing!” said Chip.
“And it’s your homework!” said Gran.
皆はデッキチェアに横たわり、空を見上げました。空は流れ星でいっぱいでした。
「こりゃあ、すごいや！」とチップが言いました。
「そして、これがお前たちの宿題にもなってるんだよ！」とおばあちゃんが言いました。

Olympic Adventure 「オリンピックの冒険」

- PG 1: The children were doing a project on the Olympic Games.
“Tomorrow we will go to the museum and next week it’s sports day,”
said Mrs May.
子どもたちはオリンピック競技について調べていました。
「明日は博物館に行きます。来週はスポーツデイがありますよ」とメイ先生
が言いました。
- PG 2: “Everyone can enter a race on sports day,” said Mrs May.
“I think the girls should have a sewing race!” laughed one of the boys.
「スポーツデイには、誰でもレースに参加できます」とメイ先生が言いま
した。
「女の子たちは縫い物競争でもすればいいんだよ」と言って男の子の一
人が笑いました。
- PG 3: After school, Anneena and Wilma went to play with Biff. Anneena was
cross.
“Some boys are so silly,” she said. The magic key began to grow.
放課後アニーナとウィルマがビフのところへ遊びに来ました。アニーナ
は怒っていました。
「男の子って、ほんとうにオバカなんだから」と言いました。
マジックキーが光り始めました。
- PG 4: The magic took the girls back in time, to a village in Greece. A boy was
calling to the villagers.
“Follow me to the games,” he said.
魔法の力で女の子たちは時代をさかのぼり、ギリシャの村に連れて来
られました。
男の子が村人に呼びかけていました。
「競技に参加する人はついて来てください」と言いました。
- PG 5: “Can we go too?” asked Biff.
“Anyone can come!” said the boy. “As long as they are male.”
「私たちも一緒に行ってもいいですか？」とビフが言いました。
「誰でも参加できます」と男の子が言いました。「男ならばね」

- PG 6: The men and the boys from the village went to the games.
“It’s not fair!” said Anneena.
“Let’s follow them,” said Biff.
村の男の人たちと、男の子たちが競技に参加しに行きました。
「フェアじゃないわ！」とアニーナが言いました。
「追いかけてようよ」とビフが言いました。
- PG 7: Outside the games, there were lots of guards. They only let men and boys in to the games.
“We’ll never get in,” said Biff.
競技場の外にはたくさんの守衛がいました。男の人や男の子だけを競技に参加させていました。
「これじゃあ、私たちは絶対に入れないね」とビフが言いました。
- PG 8: “I wish we could see!” said Wilma.
Anneena had an idea. “Let’s climb a tree,” she said.
「中の様子を見られたらなあ！」とウィルマが言いました。
アニーナにいい考えが浮かびました。「木に登りましょう」と言いました。
- PG 9: The girls climbed an olive tree. They could see the games. They watched a race. Lots of men ran with shields.
女の子たちはオリーブの木に登りました。
競技を見ることが出来ました。競走の様子を見ました。大勢の男の人が盾を持って走っていました。
- PG 10: The winner won a prize. The prize was a vase. A man put a crown on the winner’s head.
優勝者が賞品を貰っていました。それは壺でした。男の人が優勝者の頭に冠を被せていました。
- PG 11: Then the girls watched some men throwing discs as far as they could.
“Hey you!” shouted a girl.
それから女の子たちは、男の人たちが遠くをめがけて円盤を投げるのを見ていました。
「ねえ、そこのあなたたち！」女の子が叫びました。
- PG 12: The girl was under the tree.
“If anyone catches you here, you’ll be in for the high jump!” she said.
その女の子は木の下に立っていました。
「もし誰かがここにいるあなたたちの姿を見つけたら、大目玉をくらうことになるわよ」と言いました。

[*編集部注...**be (in) for the high jump** はイギリス英語の略式表現で「どやしつけられそうだ、罰を受けることになりそうだ」の意もある。ここではオリンピック競技のハイジャンプ(高飛び)とかけてこの表現が使われている]

- PG 13: “Then, why are you here?” asked Biff.
“I’m picking olives,” said the girl. “My name is Hera. You’d better come with me to the village.”
「それじゃ、あなたはなんでここにいるの？」とビフが聞きました。
「オリーブの実を摘んでいるの」と女の子が言いました。
「私の名前はヘラ。あなたたち、私と一緒に村へいらっしやい」
- PG 14: In the village, they met Hera’s friend, Mila.
“It’s always quiet when the games are on,” said Mila. “It’s so boring!”
村で、女の子たちはヘラの友達のみらに会いました。
「競技が始まると村はいつも静かになってしまうの」とみらが言いました。
「すごく退屈！」
- PG 15: Suddenly, Anneena had an idea. “Can you get all of your friends together?” she asked.
突然、アニーナに考えが浮かびました。
「お友達を全員、集めてくれない？」と聞きました。
- PG 16: The girls in the village came to the meeting.
“This is my grandmother,” said Mila. “She paints the vases for the games.”
村中の女の子が集まりました。
「こちらは私のおばあちゃん」とみらが言いました。
「競技用の壺の絵付けをしているのはおばあちゃんよ」
- PG 17: “Listen everyone,” said Anneena. “Why should boys have all the fun?”
Let’s have a girls’ Olympic Games!”
「みんな、聞いて」とアニーナが言いました。
「なんで男の子たちばかり楽しい思いをするの？女の子だけのオリンピック競技をしましょうよ！」
- PG 18: There were all sorts of races and all the girls took part. There was a three-legged race and a sack race.
色々な種類の競争が行われ、女の子たちは全員参加しました。二人三脚や布袋競争もありました。

- PG 19: Mila's grandmother gave the girls some old plates. The girls threw them like discs. They threw them as far as they could.
ミラのおばあちゃんが女の子たちに古いお皿をくれました。女の子たちはそれを円盤のように投げました。出来るだけ遠くに向かって投げました。
- PG 20: The girls had an olive-and-spoon race. Biff dropped her olives and Hera slipped on them.
女の子たちは「オリーブとスプーン」レースをしました。ビフが落としたオリーブで、ヘラが滑ってしまいました。
- PG 21: Mila's grandmother painted the girls on a vase. Hera made some crowns from olive twigs.
"We're all winners!" she said.
ミラのおばあちゃんが壺に女の子たちの絵を描きました。ヘラはオリーブの枝で冠を作りました。
「私たち、全員優勝よ！」と言いました。
- PG 22: The boys and the men came back.
"Girls doing sports?" said one boy. "That will never catch on!"
Suddenly, the magic key began to glow.
男の子と男の人たちが戻って来ました。
「女の子たちがスポーツをするって？」とひとりの男の子が言いました。
「うまく行くはずないね！」
突然、マジックキーが光り始めました。
- PG 23: The next day, Mrs May took the class to the museum. There was a display about the Greek Olympics. In a glass case there was a broken vase.
次の日、メイ先生がクラスの皆を連れて博物館へ行きました。ギリシャのオリンピックの展示がありました。ガラスケースの中に、壊れた壺がありました。
- PG 24: "A long time ago, a girls' Olympics began," said Mrs May.
Anneena looked at the boys. "And did the idea catch on?" she asked.
「ずっと昔に、女の子たちのオリンピックが始まったのよ」とメイ先生が言いました。
アニーナは男の子たちを見ました。
「それで、そのアイデアはうまく行ったんですか？」と聞きました。